

1. 科目名 (単位数)	国際保健学入門 (2 単位)	3. 科目番号	EIJP3161				
2. 授業担当教員	山本 静雄						
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	春期				
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は求めない。この授業の基礎科目は、教育学専攻で開設されている「衛生学、免疫学概論、病原微生物学等」などであるからそれらの科目を履修することが望ましい。「国際保健学入門」は国際教育専攻の関連科目である。						
7. 講義概要	「国際保健は、人々の健康問題を地球規模でとらえ、広い視野で健康を阻害する諸要因を分析し、国際的な協力のもとに健康問題の解決策を研究する学術や活動である」とされている。これから判断しても、「国際保健」が対象とする分野は実に多彩で、様々な学際的領域が包含されていることが分かる。この講義では、世界の人々約73億人の主な健康問題の現状を把握した上で健康を阻害する諸要因と健康問題の解決策を考察する。この対象は主に開発途上国における深刻な健康問題の把握と考察が中心とならざるを得ない。対象項目としては、平均余命(寿命)、食物と栄養、水、住環境と衛生設備、貧困問題、健康の不平等、教育、子どもや女性の健康問題、感染症、WHOのワクチン接種による感染症の根絶計画、非感染性疾患、タバコ・飲酒・麻薬、人口問題、地球環境問題、地球環境汚染、持続可能な開発目標SDGs(sustainable development goals)の目標3、国際協力・経済支援の必要性など多岐にわたる。						
8. 学習目標	<p>現在、世界の人々が直面している深刻な健康問題の実状を把握し、その原因を理解することを学習目標とする。さらに、先進国や個人にできる国際支援について考えることができれば望ましい。主な学習目標は、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.世界保健機関(WHO)憲章の前文に記載されている「健康とは」の定義について理解できる。 2.国別の平均余命の違いとその理由が理解でき、その原因を説明できるようになる。 3.貧困に起因する(1)短命、(2)食物と栄養、(3)未就学、(4)不衛生な水の摂取、(5)感染症などの諸問題を解説できるようになる。 4.女性や子どもの健康問題(HIV/エイズ、マラリア、消化器系感染症、結核等の感染症および小児保健、妊産婦保健)について理解し、重要な点を論ずることができるようになる。 5.非感染性疾患、飲酒とドラッグ(麻薬)、暴力と虐待などの実態について説明できるようになる。 6.地球環境問題(地球温暖化やオゾン層破壊の防止など)、地球環境汚染(ダイオキシン、DDT、PCB、重金属など)について説明できるようになる。 7.2015年に国連で示された17のSDGsの目標3「健康な生活の確保と福祉の推進」に記載されている13項目のうち主な事項(上記項目を除く)について説明ができることが望ましい。 						
9. アサイメント(宿題)及びレポート課題	<p>以下の課題の実施については講義の進行具合を考慮し、適宜指示する。字数は200字以内とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.増加を続ける世界の人口、開発途上国と先進国の平均余命(寿命)を比較しなさい。 2.開発途上国における子どもの感染症による死亡の実状を簡潔にまとめなさい。 3.開発途上国における妊産婦死亡率、妊婦健診の現状について簡潔にまとめなさい。 4.開発途上国においてHIV感染者とエイズ患者が多い理由について簡潔にまとめなさい。 5.世界の結核の実状について簡潔にまとめなさい。 6.マラリアの感染様式、感染予防、マラリア患者の発生状況について簡潔にまとめなさい。 7.開発途上国における主な非感染性疾患を3つ列記し、それらの実状を簡潔にまとめなさい。 8.治療が可能な性感染症、ワクチンによる予防が可能な性感染症、完治が望めない性感染症について各1例を挙げて簡潔に説明しなさい。(レポートの作成にはA4サイズの用紙を用いること。これらを討議にも用いる。) 						
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】日本国際保健医療学会 編 『実践グローバルヘルス-現場における実践力向上を目指して一新訂版第1刷(改題)』杏林書院、2022。 【参考書】リチャードスコルニク 著、木原正博・木原雅子 監訳 『グローバルヘルス - 世界の健康と対処戦略の最新動向 第1版』株式会社メディカル・サイエンス・インターナショナル、2017。</p>						
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 開発途上国には生命に関わる深刻な健康問題を抱えて苦しみ、生命を絶たれている人々が多数ある現実を認識できているか。 2. 上記1.の原因と解決策を考えることができるか。 3. 自分にできる支援を考えることができるか。 4. 健康にも不公平があることを理解できるか。 <p>○評定の方法</p> <table> <tr> <td>1. 日常の授業態度(積極的参加、発言)</td> <td>40%</td> </tr> <tr> <td>2. 課題レポート・発表</td> <td>60%</td> </tr> </table>			1. 日常の授業態度(積極的参加、発言)	40%	2. 課題レポート・発表	60%
1. 日常の授業態度(積極的参加、発言)	40%						
2. 課題レポート・発表	60%						
12. 受講生へのメッセージ	<p>この科目では、恐らく私たちが経験したことのない苛酷な生活を強いられる人びとが同じ地球上に生存していること、その人たちの多くが貧困や心身の疾患等々に悩んでいる開発途上国の現実を把握してほしい。その上で、これらの問題に対して自分に何ができるか、また教育者になった時にこれらの問題をどのように子ども達に伝えるかを考えて欲しい。他方、地球規模で人類がベクター媒介性疾患、人獣共通感染症の脅威に直面している現実にも目を向けて欲しい。</p> <p>この科目の履修に当たっては、他の科目と同様に、主体的に取り組み、課題を提起し、その解決策を考えることに努めて欲しい。</p> <p>成績評価は実施する授業形態に応じて以下の通りに行います。</p> <p>A) 対面授業を実施した場合の成績評価は、上記11.の評定の方法に従って行います。ただし、課題レポート・発表は、60%の範囲内でテストに置き換えることがあります。</p>						

	B) オンライン授業を実施した場合の成績評価は、授業態度(出席、カメラ・オンの履行、事前・事後学習、音読、質疑応答など)を40%、小テストを60%で判定します。 C)上記A)とB)の両方で授業を実施した場合の成績評価は、おおむね実施した授業形態の割合に基づいて両方の評価基準を適用して評価します。		
13. オフィスアワー	初回の講義で周知します。授業中および授業の前後に質問に答える時間を確保します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	国際保健とは、インターナショナルヘルスからグローバルヘルス、プラネタリーヘルスへなど	事前学習	配布する資料と教科書のpp.21~23を読んで概要を把握する。
		事後学習	国際保健の問題点を整理する。
第2回	増加を続ける世界の人口、開発途上国における健康問題の実状 パンデミックと公衆衛生危機、医薬品の知的財産の問題など	事前学習	資料と教科書のpp.29~32の該当箇所を読んで概要を把握する。
		事後学習	子どもの健康障害の原因を考える。
第3回	世界の健康課題(1)子ども:平均余命(寿命)、小児死亡率、死亡の原因 世界の健康課題(2)女性:妊産婦保健、妊婦健診、妊産婦死亡率、暴力と虐待、教育など	事前学習	資料と教科書のpp.40~43の該当箇所を読んで概要を把握する。
		事後学習	女性における心身の健康障害の原因を考える。
第4回	世界の健康課題(3)子どもの感染症:下痢症、肺炎、マラリア、新生児破傷風の実態と対策、栄養問題など	事前学習	資料を読んで概要を把握する。
		事後学習	開発途上国における子どもの死亡原因となる感染症を整理し、理解する。
第5回	世界の健康課題(4)感染症:ワクチン予防可能感染症(VPD):痘瘡(天然痘)とその根絶、ポリオ撲滅活動の現状、麻疹、結核、子宮頸がん、B型肝炎など	事前学習	資料と教科書のpp.42、46を読んで概要を把握する。
		事後学習	性感染症には、ワクチンによる予防が可能なもの、治療が可能なもの、治療が不可能なものがある。それらを整理し、理解する。
第6回	世界の健康課題(5)感染症:拡大予防接種計画(EPI)、HIV/AIDSの現状(2021年現在)、HAART療法普及と教訓、HIV/エイズの感染予防、治療の課題、母子感染予防など、マラリア、COVID-19など	事前学習	資料と教科書のpp.42、43~49を読んで概要を把握する。
		事後学習	HIVの感染を防ぐ方法、HIV感染者と交流する上で人権上留意すべき事項を正しく理解する。
第7回	世界の健康課題(6)感染症:性感染症-1(治療ができない感染症) HIV/エイズとその母子感染予防、予防法など、ヒトパピローマウイルス、単純ヘルペスウイルス、B型肝炎ウイルス、ヒトTリンパ球指向性ウイルス1型(HTLV-1)など	事前学習	資料と教科書のpp.43~45を読んで概要を把握する。
		事後学習	治療ができない感染症について整理し、理解を深める。
第8回	世界の健康課題(7)感染症:性感染症-2(予防が可能な感染症)ヒトパピローマウイルス(HPV)、B型肝炎ウイルス、マラリアなど(治療が可能な感染症)梅毒、腔トリコモナス症など	事前学習	資料と教科書のpp.46~47を読んで概要を把握する。
		事後学習	ワクチンによる予防が可能な感染症と薬物による予防が可能な感染症を整理すること。マラリアの感染経路、ベクター感染、感染予防対策、輸入マラリアについて整理し、理解する。治療が可能な感染症について整理し、理解すること。
第9回	世界の健康課題(8)感染症:人獣共通感染症-輸入感染症:ペスト、狂犬病、ヒトサル痘、デング熱など、現存する感染症:腸管出血性大腸菌症、サルモネラ症、高病原性鳥インフルエンザウイルス感染症、トキソプラズマ症、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病など	事前学習	資料を読んで概要を把握する。
		事後学習	人獣共通感染症の予防が困難な理由を考えなさい。
第10回	健康に及ぼす要因(1):社会的要因と健康格差、さまざまな社会的要因と健康の関係:所得、貧困、所得・貧困と疫学的転換、教育歴と健康、職業・雇用形態と健康、社会関係、出身国や人種・民族、マクロな経済状況、建造環境など	事前学習	教科書のpp.66~68を読んで概要を把握する。
		事後学習	健康格差を理解し、その是正が可能か否かを考える。
第11回	健康に及ぼす要因(2)健康の生態学的決定要因 プラネタリーヘルス、プラネタリー・バウンダリーズとその構成要素、気候変動により影響を受ける疾患・健康問題	事前学習	教科書のpp.71~76を読んで概要を把握する。
		事後学習	気候変動がもたらす新たな感染症について予測しなさい。
第12回		事前学習	資料を読んで概要を把握する。

	健康に及ぼす要因(3) : 貧困と不平等、教育、住環境、水と衛生設備、食物と栄養、がん、心疾患と脳卒中、糖尿病、精神保健(メンタルヘルス)、暴力と虐待	事後学習	開発途上国と自国におけるこれらの非感染性疾患への対応の相違について考える。
第13回	健康に及ぼす要因(3) : 傷害、呼吸器疾患、下痢症、ワクチンで予防可能な疾患、伝染病、パンデミック(世界的大流行)、エピデミック(地域的流行)、エンデミック(地方的流行)労働環境、健康管理、アルコール、ドラッグ、タバコ、人口問題、気候変動、戦争、不健康な食事、抗菌耐性、医療従事者の不足	事前学習	資料を読んで概要を理解する。
		事後学習	開発途上国で下痢症による脱水を防止する簡単な方法について整理し、覚えなさい。
第14回	倫理と人権、健康と人権 : 健康権、健康と人権との関係、人間の安全保障、人間の安全保障と人権	事前学習	教科書の pp.181~185、188~193 を読んで概要を把握する。
		事後学習	倫理と人権という大事な問題について理解を深め、よく考える。
第15回	移民の健康 : 移民とは、移民の健康など 総括および質疑応答	事前学習	教科書の pp.199~205 を読んで概要を把握する。
		事後学習	個人の力が及ばない問題であるが、移民の問題を深く考える。
期末試験			